

「居場所ってなんだろう？」

さとにきたら ええやん



から考える地域の支援

映画『さとにきたらええやん』の
上映+講演会から、自分たちの地域に
本当に必要なこどもの支援
について考えます。

アドバイザー：大野 慶 氏

長野県立大学 健康発達学部 こども学科 助教

1994年、北海道札幌市生まれ

北海道大学大学院教育学院博士後期課程在学中

関西学院大学人間福祉学部実習助手などを経て、現職

専門は貧困研究、教育福祉論

2025年6月より長野市社会福祉協議会理事



日時：令和7年10月28日(火)

13時30分～16時(予定)

会場：長野市ふれあい福祉センター5階ホール

(長野市大字鶴賀緑町1714)

※ 駐車台数には限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用下さい。

お申し込み： 下記 URL もしくは二次元コードを読み取り
フォームに必要事項を記入してお申し込みください。



<https://x.gd/FJT4H>

- ・ フォームスでのご対応が難しい場合は、下記までお電話にてお申し込みください。
- ・ メール・FAX ではお受けしていません。

申し込み締め切り 10月21日(火) 正午 (定員100名に達し次第、締め切ります)

お問い合わせ：長野地域こどもカフェプラットフォーム(長野地域振興局 総務管理課内)

☎ 026-234-9531



いつでもおいでや。 子どもも大人も集まるみんなの“さと”



大阪市西成区釜ヶ崎。“日雇い労働者の街”と呼ばれてきたこの地で38年にわたり取り組みを続ける「こどもの里」。“さと”と呼ばれるこの場所は、障がいの有無や国籍の違いに関わらず、0歳からおむね20歳までの子どもが無料で利用することができます。学校帰りに遊びに来る子、一時的に宿泊する子、様々な事情から親元を離れている子…そして親や大人たちも休息できる場として、それぞれの家庭の事情に寄り添いながら、地域の貴重な集い場として在り続けてきました。本作では「こどもの里」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも全力で生きる子どもたちと、彼らに全力で向き合う職員や大人たちに密着。子どもたちの繊細な心の揺れ動きを丹念に見つめ、子どもも大人も抱える「しんどさ」と、関わり向き合いながらともに立ち向かう姿を追いました。



わたしはあんたの味方やで! 現在、求められている“居場所”の原風景



「こどもの里」の取り組みを通して、画面いっぱいにあふれ出る子どもたちや、釜ヶ崎という街の魅力を捉えたのは、大阪在住の重江良樹監督。「こどもの里」に関心を抱き、関わり、取材を始めてから足かけ7年、いま、初監督作品として本作を完成させました。音楽は地元・釜ヶ崎が生んだヒップホップアーティスト、SHINGO★西成。ストレートで飾らないメッセージの中に、街で生きる人々への熱い思いが詰まったSHINGO★西成の楽曲が、生きることそのものを力強く肯定し、映画全体をあたかく包み込みます。めまぐるしく移り変わる現代社会のなかで、子どもたちを巡る環境も急激に変化している今、あらためて注目されている「こどもの里」の“取り組み”が、これから歩む私たちに問いかけるものとは——？

「こどもの里」とは？

1977年設立の「子どもの広場」を前身とし1980年に現在の場所で「こどもの里」を開設。以後、子どもたちの遊び場であると共に、各家庭のケースに応じた短中期的な宿泊機能、長期的な養育をおこなう里親としての機能を持つ。

子どもたちの 遊びと学び 生活の場です

誰でも利用できます。
こどもたちの遊びの場です。
お母さん お父さんの休息の場です。
学習の場です。
生活相談 何でも受け付けます。
教育相談 何でもできます。
いつでも宿泊できます。
緊急に子どもが一人ぼっちになったら…
親の暴力にあつたら…
家がいやになつたら…
親子で泊まる場所がなくなつたら…
土・日・祝もあいてます
利用料はいりません



【主催】 長野地域こどもカフェプラットフォーム

【共催】 長野県将来世代応援県民会議長野地域会議、長野県子ども・若者育成支援推進本部長野地方部、長野市社会福祉協議会

【参加対象】 長野地域こどもカフェプラットフォーム参加団体・支援団体、長野県将来世代応援県民会議長野地域会議構成団体、長野県子ども・若者育成支援推進本部長野地方部員、長野市住民自治協議会関係者、長野県立大学学生、その他こどもの支援を行っている個人・団体、その他



この研修会は 一般財団法人サンクゼール財団「令和7年度 愛と喜びのある食卓づくり支援助成金」を活用しています。